

歴史と文化を考えよう

'03 江東区文化財保護強調月間



「子供あそび角乗の図」(部分)

江東区教育委員会所蔵

下町文化

NO. 223
2003.9.27

発行
江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課
〒135-8383
江東区東陽4-11-28
TEL(03)3647-9819
http://www.city.koto.tokyo.jp/bunkazai

03江東区文化財保護強調月間

公開講演会 大石家住宅特別公開
民俗芸能大会 時雨忌講演会
伝統工芸展 歴史さんぽ

江戸開府400年記念事業・特別企画展
「江東地域の400年
- 小名木川とその周辺 -」

「中川番所とその背景(下)」
中川船番所資料館開館記念講演録

江東外見発見伝
永代橋崩落事故犠牲者供養塔
ココにも歴史があった
ちゃぶ台

今年もまもなく文化財保護強調月間を迎えます。教育委員会では「歴史と文化を考えよう」をテーマに、10月1日から11月3日までの約1か月間、さまざまな催しを行います。地域の歴史のなかで育まれてきた民俗芸能や伝統的な「技」の数々をご覧ください。

引き続き、11月12日から12月7日まで、中川船番所資料館において、江戸開府400年記念事業・特別企画展「江東地域の400年 小名木川とその周辺」を開催いたします。今年には徳川家康が征夷大將軍に任じられ、江戸に幕府を開いた慶長8年(1603)より満400年の節目に当たります。江戸・明治・大正・昭和を通じ、江戸・東京に直結する大動脈だった小名木川とその周辺の歴史を探ります。ぜひこの機会に、江東区の歴史と文化にふれてみてください。

公開講演会

「文化遺産の現状と保存」

旧大石家住宅特別公開

「大石家ののり用具」

民俗芸能大会(江東区民まつり)

伝統工芸展

歴史さんぽ

「大川を渡る」

江戸開府400年記念事業・特別企画展

「江東地域の400年」

公開講演会

文化財に関するお話です。ヨーロッパと日本の事例を通して、文化財保存のあり方を考えます。皆さんのご参加をお待ちしています。

演題 「文化遺産の現状と保存」

講師 江東区文化財保護審議会委員

段木 一行

日時 10月1日(水)

午後6時30分～8時30分

会場 教育センター1階 大研修室

定員 70人

申込 電話(先着順)

旧大石家住宅特別公開

ミニ展示「大石家ののり用具」

旧大石家住宅は、150年以上前に建てられた区内最古の民家です。ふだんの公開日は土・日曜と祝日ですが、文化財保護強調月間の期間中に限り、特別に平日も公開いたします。あわせて、今回は大石家の屋根裏に残された「のり用具」のミニ展示を行います。庭にはベゴニア、座敷にはめんこ・おはじきなど昔なつかしいおもちゃも用意してあります。 **入場無料**

場所 旧大石家住宅(南砂5 24地先)

仙台堀川公園内ふれあいの森

時間 午前10時～午後3時

強調月間協賛事業

時雨忌講演会

10月12日は松尾芭蕉の命日です。芭蕉記念館では、この日にちなんで記念講演会を開催します。

日時 10月12日(日)

午後2時～3時30分

演題 「実践としての不易流行論」

講師 東洋大学教授 谷地 快一

定員 80人(先着順)

申込 電話または記念館にて

☎ 3631 1448

10/4(土)～10/13(祝)



縁側で遊ぶ子どもたち



江戸府400東 民俗芸能大会 10/19(日)

江東区で江戸時代に生れ、受け継がれてきた民俗芸能を一堂公開いたします。

砂村囃子

テンポの良い

葛西囃子に合わせ、竹竿1本で

バランスをとり、水に浮かべた角材の上で数々の妙技を披露する「木場の角乗」。米俵をひょいと片手で担ぎ上げる「深川の力持」。名調子での解説も楽しく、驚きの連続です。

江東区指定無形民俗文化財

「砂村囃子」 砂村囃子睦会

江東区登録無形民俗文化財

「富岡八幡の手古舞」

富岡八幡の手古舞保存会

東京都指定無形民俗文化財

「深川の力持」 深川力持睦会

会場 都立木場公園

【午後1時～3時45分】

東京都指定無形民俗文化財

「木場の角乗」 木場角乗保存会

東京都指定無形民俗文化財

「木場の木遣」 木場木遣保存会

江東区指定無形民俗文化財

「砂村囃子」 砂村囃子睦会

江東区登録無形民俗文化財

「富岡八幡の手古舞」

富岡八幡の手古舞保存会

東京都指定無形民俗文化財

「深川の力持」 深川力持睦会

会場 都立木場公園

【午前11時～12時30分】

東京都指定無形民俗文化財



砂村囃子

テンポの良い葛西囃子に合わせ、竹竿1本で

バランスをとり、水に浮かべた角材の上で数々の妙技を披露する「木場の角乗」。米俵をひょいと片手で担ぎ上げる「深川の力持」。名調子での解説も楽しく、驚きの連続です。

江東区指定無形民俗文化財

「砂村囃子」 砂村囃子睦会

江東区登録無形民俗文化財

「富岡八幡の手古舞」

富岡八幡の手古舞保存会

東京都指定無形民俗文化財

「深川の力持」 深川力持睦会

会場 都立木場公園

【午後1時～3時45分】

東京都指定無形民俗文化財

「木場の角乗」 木場角乗保存会

東京都指定無形民俗文化財

「木場の木遣」 木場木遣保存会

江東区指定無形民俗文化財

「砂村囃子」 砂村囃子睦会

江東区登録無形民俗文化財

「富岡八幡の手古舞」

富岡八幡の手古舞保存会

東京都指定無形民俗文化財

「深川の力持」 深川力持睦会

会場 都立木場公園



木材の集散地・木場を抱えた江東区ならではの

伝統工芸展 10/29(水)～11/3(月・祝) 入場無料

区無形文化財(工芸技術)保持者に認定された職人さんたちの作品を一堂に展示します。

伝統的な技術によって、一つひとつ手仕事で作られた工芸品を目にすることで、きるまたとなない機会です。今回で22回目を迎える本展で、多くの作品や技の実演を通して江東区の伝統文化を実感していただきたいと思ひます。

会場 森下文化センター(森下3 12 17)
時間 9時～17時(最終日は16時まで)

実演公開

10月29日～10月31日 9時半～15時半
11月1日～11月3日 10時～15時半

期間中、会場では職人さんの仕事を間近に見ることが出来ます。日ごろ、見ることで出来ない職人さんの仕事ぶりに接しながら、お話しを楽しんで



手描き友禅(和田宣明)

いかがでしょうか。下記の日程表をご参照のうえ、おでかけください。

職人教室(技の体験)

11月1日～3日 10時～15時半

職人さんの仕事を体験することが出来ます。モノを作ることの難しさ、出来たときの喜びを味わってください。

【申し込み】

当日、会場2階受付にてお申し込みください(先着順)。なお、事前申し込みの体験もあります。詳しくは下記の日程表をご覧ください。なお教材費がかかりますのでご注意ください。

チャリティーバザール

期間中、森下文化センターの1階ロビーでは、江東区伝統工芸保存会による工芸品の即売がおこなわれます。販売している方たちも職人さんですので、気軽に話しをしながら、じっくりとご覧になってください。

伝統工芸展実演公開・職人教室 日程表

| 日 | 時 | 9時半～11時半 | 13時半～15時半 |
|----------|---|--------------|----------------------------|
| 10/29(水) | | 刀剣研磨 白木 良彦 | 表具 岩崎 清二 |
| 10/30(木) | | 木工(彫刻) 岸本 忠雄 | 仕舞袴製作 杉浦 武雄 帯の実演 |
| 10/31(金) | | 足袋製作 箕輪 庄太郎 | 庖丁製作 吉實庖丁店 刺繍(紋章) 天野 一政 |

| 日 | 時 | 10時～12時 | 13時半～15時半 |
|-----------|---|--|--|
| 11/1(土) | | 江戸切子 小林 英夫 費200円・定員9名 3人ごと40分交代 | 提燈製作 杉田 礼二 費500円・定員10名 |
| | | 象牙細工 前田 賢次 仕舞袴製作 杉浦 武雄 帯の実演 | 木工(襖・櫺) 鈴木 延坦 建具(組子細工) 木全章二 費500～1000円・定員10名 |
| 11/2(日) | | 更紗染 更浜(美弥好) 費2000円・定員7名 | 手描き友禅 和田 宣明 費3000円・定員6名 2人ごと40分交代 |
| | | 江戸切子 須田 富雄 木工(彫刻) 渡辺 美壽雄 | 木工(桶) 川又 栄一 木工(彫刻) 岸本 忠雄 費500～2000円・定員10名 |
| 11/3(月・祝) | | 簾製作 豊田 勇 | 木工(指物) 山田 一彦 費2000円・定員10名 |
| | | べっ甲細工 磯貝 實 費1000円・定員15名 紋章上絵 石合 信也 | 相撲呼び出し裁着袴製作 富永 皓 刀剣研磨 白木 良彦 |

■は職人教室(技の体験)です。教材費がかかります。なお、印の体験は、事前申し込みが必要です。電話にて、文化財係03(3647)9819まで、お申し込みください。定員を超える場合は抽選となります。しめ切りは10月23日(木)です。

歴史さんぽ 11/2(日)

「大川を渡る」

日本橋浜町から深川森下へ

今回は、大川(隅田川)をはさんだ日本橋浜町から深川森下周辺を散策し、大川端の歴史を探ります。浜町公園(元熊本藩細川家下屋敷)・清正公寺・浜町堀・新大橋・旧新大橋跡・深川神明宮などを見て歩き、大川兩岸の移り変わりにふれてみてください。

日時 11月2日(日)午後1時～3時半
集合 都営新宿線浜町駅改札
(森下文化センター解散)

講師 深川江戸資料館 久染 健夫
定員 30人(申込多数の場合抽選)
参加費 保険料30円

申込 往復はがきに、住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ、文化財係までお申込みください。
締切 10月22日(水) 必着



江戸府400年 東京

400 Years from Edo to Tokyo

江戸開府400年記念事業
中山船番所資料館特別企画展

江東地域の400年

——小名木川とその周辺——

慶長8年(1603)徳川家康が江戸に幕府を開いてから今年で400年を迎えます。江戸・東京はこの400年の間にどのような足跡を残してきたのでしょうか。江戸の後背地として機能してきた江東区域にも同じく400年という歴史が積み重ねられました。この足跡をたどる企画展示「江東地域の400年 小名木川とその周辺」を中川船番所資料館において開催します。

江東区を東西に流れる小名木川は、江戸の町の造成と並行して行われた水運網の整備の一環として開削され、以後、江戸と関東をつなぐ大動脈として活躍してきました。江東地域の発展もまた小名木川を軸に形成されていったと言えます。今年3月にオープンした中川船番所資料館初の企画展はこの小名木川を軸に、江戸・東京の消費生活を担った水運とそれを支えた江東地域の姿を考えていきます。合わせて小名木川周辺の現代までの歴史的展開にも目を留め、江東区の400年を見つめます。

直します。

ここで各コーナーの詳細をご紹介します。3階の企画展示コーナーでは、江戸時代の小名木川がテーマです。江東地域の成立、小名木川によって育まれた地域の歴史と変遷、さまざまな物資の流れと川船、水辺に開花した文化

という4つの主題のもとに展開していきます。

江戸開府以前の江東区域

——中世から近世へ——

中世の江東地域は隅田川や中川の河口に位置し、亀戸あたりが海岸線にあたります。中世の地域構造を概観するとともに、中世には内湾交通と河川交通を結ぶ湊であった亀戸をとりあげ、中世から近世への過渡期における江東地域の姿を考証していきます。



どすい 土埴 (香取神社所蔵)

小名木川的生活世界とその展開

海岸線を埋め残す形で造られた小名木川とその南岸の埋め立ての変遷を絵図によって追っていきます。さらに絵画資料からよりビジュアル的に小名木川の姿に迫ります。沿岸の町・村の概要や現存する文化財を紹介し、あわせて江戸近郊の行楽地として賑わう様子を錦絵などを中心に紹介します。

物資の流通

江戸時代中期以降には商品流通が活発となり、関東各地から江戸へ向けてさまざまな商品荷物が送られるようになります。小名木川を通り江戸へ運ばれた関東周辺地域の産物から、銚子の干鰯、野田の醤油、葛西の灰、あるい



歌川広重「五百羅漢さゞみ堂」(『名所江戸百景』)

は毎日の食膳を彩った近郊野菜をとりあげ、荷物の流れを江東地域の問屋機能を変えて解説します。加えて運搬に活躍した川船についても、その種類と形、河川の航行に関する取締りについて見ていきます。

また、江戸幕府の流通政策の一端を担った中川番所に関連する資料として、中川番所鑑札(複製・江戸川区教育委員会原蔵)を展示します。



中川番所鑑札(複製)

川が育むうるおいの文化

河川はまた情報・文化の流通ルートとしての役割も果たしました。中川番所を通じて成田山参詣や常総方面の周遊へと向かう人々の紀行文から、当時の小旅行をたどります。また魚釣りや船遊びなど、四方を水に囲まれた江東地域ならではの楽しみを紹介し、この



「行徳」(部分)(渡辺崋山『四州真景図』複製)

地に花開いた独自の文化について考えます。1階のエントランスホール・資料閲覧学習室では、近代から現代へかけて移り変わっていく小名木川沿岸の姿を見ていきます。

小名木川と近代産業

(エントランスホール)

明治に入ると近代工業の発展にともない川沿いには大工場が建ち並ぶようになりま。小名木川沿岸で生まれた近代工業を紹介するとともに、沿岸の工場の分布とその立地条件について考えます。また昭和4年(1929)に

水陸連絡貨物専用駅として開業した小名木川駅の雄姿を写真を中心に展示します。



浅野セメント工場(明治8年~昭和14年)

景観の変貌

(資料閲覧学習室)

産業の発展と都市化、あるいは幾多の災害により江東区の景観は大きく変貌を遂げてきました。その様子を関東大震災、高度成長期など大きな契機の前後を中心とした古写真と現況写真の対比で見えていきます。

この機会に水彩都市・江東の歴史と未来を見つめ、その魅力を再発見してみませんか。



原料糖の荷揚げ

会場 中山船番所資料館

(江東区大島9 1 15)

会期 11月12日(水)~12月7日(日)

11/17(月)・11/25(火)

・12/1(月)は休館

時間 午前9時30分~午後5時

(入館は午後4時30分まで)

入場料 大人200円

小・中学生50円

* * *

講演会 11月30日(日)

午後1時30分~3時30分

会場 東大島文化センター

(江東区大島8 33 9)

演題 「小名木川をめぐる

流通と商人たち」

講師 日本福祉大学専任講師

まがりた 曲田 浩和先生

定員 250名(申込多数の場合は

抽選)

申込方法 往復八ガキにて中川船番所

資料館(〒136 0072

江東区大島9 1 15)まで

締切り 11月20日(木)(消印有効)

費用 無料

* * *

史跡めぐり 「江戸湊を歩く」

日時 11月22日(土)

コース 中川船番所資料館集合、企画

展覧学の後バスにて人形町へ

移動、徒歩にて小網町・新川・

鉄砲洲界隈を散策、解散は八

丁堀駅

講師 久染 健夫(深川江戸資料館)

史跡めぐり 「小名木川沿岸を歩く」

日時 12月6日(土)

コース ティアラこうとう前から釜屋

跡・五百羅漢跡・大島稲荷・

宝塔寺など小名木川沿岸の史

跡と文化財を見て中川船番所

資料館企画展を見学後解散。

講師 江東区文化財専門員

* * *

史跡めぐりの申込方法など詳細は、後

日区報等でお知らせします。

問合せ 生涯学習課文化財係

☎ 3647 9819

江東区中川船番所資料館

☎ 3636 9091

中川番所とその背景 (下)

千葉経済大学教授

川名 登 先生

中川船番所資料館では番所の前に船を作っておられまして、その船に積んであるのは酒樽です。あのような荷物が番所の監視の中心です。江戸という町はご存知のように、徳川家康が江戸に入って日本の政治の中心として栄えてきたのですが、全国から大名達が参勤交代で否応なしに来る、妻子を江戸に住まわせる、当然奥方と子供だけが江戸に住んでいるわけではありませんから、家臣団も必要になりますし、多くの人々が集まって来ると同時に、それを目指して商人が集まってくる。江戸の人口が急速に増え、あの時期では百万人を超えていて、イギリスの首都ロンドン、フランスの首都パリを超えて世界一と言われました。それだけの人口が江戸に住むとなると、この人たちが食べた飲み物や着たり、消費する物資の量は膨大です。これをどうして集めたのでしょうか。当然、江戸の周りだけでは出来ません。江戸に物資を運んでこなければなりません。どうやって持って来るのでしょうか。

当時の物の輸送機関は五街道に宿場

というものを設けて、そこに揃えておいた馬と人足です。馬に積み、人が担ぐ、こうして運んでいくのが東海道・中山道などの街道です。馬と人の輸送能力でどのくらいの荷物が運べるのか。普通の馬が積めたのは米俵で2俵。田舎では、だいたい成人前後に米俵1俵が担げないと若者の中に入れてくれなかった。このふたつで大量の米俵をどう運ぶか？例えば、佐倉藩は11万石ですが、仮に10万石として年貢率を四公六民と考えると、年貢は4万石。4斗1俵と計算すると10万俵。大部分は江戸に運んでお金に換えないといけません。これを馬で運ぶとしたら単純に考えて5万匹の馬が要る。人間が運ぶなら10万人です。20代の男性だけを10万人揃えることは絶対不可能。佐倉藩なら江戸が近いからまだいい。仙台とか盛岡、どうやって年貢を運ぶのか。運べないのです。運ばなくなるとどうなるか、藩がつぶれてしまう。この時代にこれを超えるものはただひとつ船だけ。海の船の代表的なものを千石船といっています。この船が荷物をど

のくらい積めるかということ、文字通り千石、2500俵。1艘で2500俵運べるのです。川の船は小さいですが、

関東利根川水系の高瀬船は大きな船です。長さはこの会場よりまだ長い。もちろ

ん高瀬船にも大小がありますが、最も大きいものでどのくらいの米が積めるかという

と、約1000俵。馬や人とは比べものにならないのです。船を使わなかつたら世界一の人口を持つ江戸を支えることは不可能です。その

ため江戸の人々が消費するものは全部と言つていいくらい船で入ってくる。海の方は東京湾。川の方は利根川、分

流して江戸川、中川、大川といわれる隅田川。この3つの川を結んでいる新

川。小名木川を通つて入ってくる。北関東から江戸に入ってくる船は利根川

をさか上つて、江戸川を下り、江戸に着く。利根川の上流では、現在の高崎

の近くまで大きな船がそのまま行きます。ここから入ってくる荷物はだいた

い信州とか新潟からくるものです。鬼怒川を上ると宇都宮の近くまで船が行

きます。すると奥州からの荷物が入ってくる。仙台藩の米は太平洋を南下し

て銚子港に入ります。銚子港で高瀬船に積み換えます。そして江戸に入つて

くる。仙台藩だけではありません。盛岡藩の米も北上川を下り、河口の石巻

で海の船に積み替えて銚子に着く。北関東や東日本の物資が全部このコースをたどつて入ってくるのです。

幕府の経済統制

この時期の経済の基本は、米遣い経済と言われるように米です。米の値段

の上がり下がりには重大な関心事です。今で言えば株と金と同じ。幕府にとつ

ては重要な基本政策です。そのためだけに江戸に米が入ってくるか、来ないかが重要

です。それをどこで調節するのが良いか？ここ中川です。川から入ってくる物資をこ

こで全部チェックする。江戸の米の値段を下げようと思つたら多く通す。値段を上げようと思

つたらここで止める。そうした経済統制をやる。それがこ

ここと江戸湾入口の浦賀。ですからここを通る荷物にはいたつてや

かましい。特にやかましいのが米と酒です。酒はご存知のよう

にお米で造りますからね。米の商品化という問題には酒が

一番絡んでいます。ですから幕府は全国に対して酒の統制を

始めます。酒を造れとか造るなとか。その結果も確かめたい。こ

うした基礎的な経済政策のデータを中川番所と浦賀番所

中川番所の特色

もうひとつ、中川番所だけの特色があります。それは、女性を通さない。

他の関所も女性にはやかましいのです。が、きちんとした関所手形を持っていけば通すのです。ところがこの中川番所だけはどんな偉い人が発行した証明書でも通さない。それがもうひとつの特色です。しかし、それはあくまでも建前で、人の出入には非常に緩い。本当は手形を調べるのですが、船の中から「通ります」と声がかかると、「おう」と言っ通すという具合。そういうことを詠んだ川柳が「ございませうけれど、その位いい加減なことになっている。」

実際の例を見てみますと、元禄13年(1700)、上野東叡山寛永寺が普請されて立派なお寺が出来ました。特に許すということで、女性でも見物してよるしいというお触れが出ました。そこで下総(千葉県)からも行ってみたいという女性が多数でてきました。行徳(市川市)から船に乗ったのはいいのですが、中川番所をどうするか。番所手前の船堀(江戸川区)で岸に上がってしまうのです。そこから小松川(江戸川区)の方へ行き、番所の後ろを歩いて通る。船は番所を過ぎたところで待っている。そこからまた船に乗って小網町(中央区)へ。こうすると叱られない。もうひとつ、船橋(船橋市)から船に乗り築地(中央区)に海上を行く。これも中川番所を通らないで

く手ですね。内海は静かですから、川みたいなものです。帰りも同じように船に乗って帰る。このようにして下総の女性がグループで出掛けたという記録が残っています(『椿新田記』)。

寛政3年(1791)、有名な俳人小林一茶が行徳から船に乗って、たまたま乗り合わせて知り合った2組の男女と連れ立って江戸に帰ってきました。そしていよいよ中川番所に近くなる。乗っている2人の女性は通れないですね。船頭が番所の手前で船を岸に着けて、女性を下ろし、番所の裏をズッと歩いていくように教える。そして一茶と2人の男性は船のまま通る。船は先に行って待っていて歩いてきた女性を乗せる。これを見た一茶は、こういう句を作りました。「茨の花、爰をまたげと咲にけり」。番所の後ろの藪を抜けるために、女性は裾を端折って歩いた。おそらく、下の赤いおこしを出して歩いたと思います。女性の白い足と下に咲く荊棘の花が非常に印象に残るのですが、皆様はどうでしょうか? 一茶は言います。「誠に今は良い世の中だ。重箱(方なる器)を搗粉木(丸木)で洗うが如し」と(『寛政三年紀行』)。どうも実際には番人が知らなかったとは思えないですね。後ろを通っているのを知っていたと思つのです。「俺は前しか

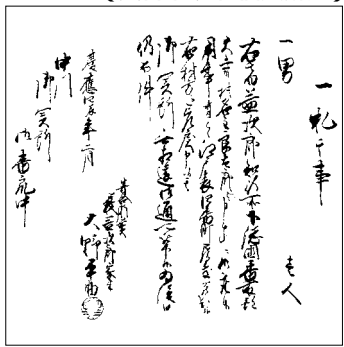
見てないぞ。」資料館の中に作られた番人も前しか見ていない。後ろは壁ですから用はない。旅人の取り締まりに至つてルーズ。これが中川番所の特徴です。

私が40年来の房総の農村史料調査をやつておりまして見付けた中川番所の関所手形が「ございませう(写真参照)。

寄合肝煎の旗本敷益次郎の家来大野平助が書いた文書です。宛先が中川御番所ではなくて「中川御関所」と書いてある。この内容は、私の主人の敷益次郎の領地である下総国香取郡大寺村(八日市場市)の名主を務めている良太郎を、敷の江戸屋敷四番町(千代田区)に用があるから呼び付けたが、本人を村に帰すので、中川関所を通るからひとつよろしく通してやって下さい。

これは慶応4年(1868)という時期にしてはやかましいように見えます。実は手形はなくても良かったと思つています。大野平助の判が押してあると

中川番所関所手形 (八日市場市 個人所蔵)



(読み下し文)

一札の事
 一、男 一人
 右は、益次郎知行所下総国香取郡大寺村名主良太郎と申すものに御座候、用事これ有り、江戸表四番町屋敷へ罷り出で候、右、村方へ差し戻し申し候、其、御関所相違なくお通し下さるべく候、後日の為、仍つて件の如し
 慶応四年二月
 寄合肝煎 敷益次郎家来 大野平助 (印)
 中川 御関所 御番衆中

いうことは原本です。ふつう現物はどこに残るか、それは中川番所です。それが名主の家に残っていた。ということとは、出さなかったのです。だから、実は手形は無くても通れた。出さなかったことで、これを皆様にお目にかけてることが出来ました。こういう事情で百何年振りかのめぐり合せとなり、皆様が実物のコピーを手にとつて見ることが出来たのです。皆さんにとつても今日は記念日となつたわけです。ありがとございませう。

江東外伝
見発見見

徳願寺の永代橋 崩落事故犠牲者供養塔

文化4年（1807）8月19日。

この日は、深川八幡宮の祭礼が12年ぶりに再開されました。産子の町々からは山車・練物が出て、江戸近在から多くの見物人が深川へ押しかけました。

しかし、この日は一橋家の船が通るため、永代橋は一時通行止めとなっていました。昼四時（午前10時）ころ、通行止めがようやく解除されると、待ちに待った群衆が我先と橋を駆け渡りはじめました。そしてその時、突如、永代橋が崩壊したのです。橋上の群衆は川の中へとなだれ落ち、さらに、事故を知らない後方の人々が押し進んだ



永代橋危難（『永代橋危難記』江東区教育委員会所蔵）

ことで、多くの男女が続々と水中へ押し落とされました。この事故の犠牲者は二、三千人にも達したといい、稀代の大事事となりました。

この事故で亡くなった人々の供養塔が行徳の海蔵山徳願寺にあります。塔身正面には「薦文化四丁卯年八月十九日永代橋溺死精霊頓悟覚道之也」と刻まれ、基礎正面には日本橋の成田山講である「日本橋講中」の刻銘、背面には塔を建てた講中の人々の名前が刻まれています。

この供養塔は門前の寺町通り沿いに建ち、文化10年、十方庵という僧の紀行文である『遊歴雑記』にも「門外に、過し文化初年八月十九日深川八幡祭礼の節、永代橋崩れ落て溺死せしものゝ為に、見上るばかりの石碑を建たり」と記されています。

永代橋崩落事故の供養塔は両国回向院（塔は現存せず）と深川海福寺にも建てられました。現在、海福寺は目黒区に所在し、供養塔（都指定有形文化財）も同寺内にあります。

楽しいはずの祭礼が刹那に悲劇となった惨事を物語る悲しい石塔です。

ココにも歴史があつた

写真は、星一徹がひっくり返すシーンで有名な「ちゃぶ台」です。東砂6の大石忠一さんに寄贈していただきました。4本の脚はたたむことができ、部屋の隅に収納することができます。

日本にはもともと、家族が食卓を囲むという習慣はありませんでした。それぞれが箱膳などを用いて、家長から順番に並んでご飯を食べていたわけです。それが明治の文明開化、大正デモクラシーなどにより、西洋の食習慣が輸入されてきたなかで、椅子とテーブルを日本風にアレンジしたのがちゃぶ台だったのです。全国に広まったのは昭和に入ってから



です。小さいかわいらしいちゃぶ台は、最近ではアンティーク家具として人気が高いようですが、写真のちゃぶ台は現在も旧大石家住宅の友の会で使用されています。

編集後記

浄土宗 海蔵山徳願寺
住所 千葉県市川市本行徳5 22
交通 東西線妙典駅下車徒歩5分



行徳にある永代橋供養塔

旧大石家住宅の庭で見つけたセミの抜け殻です。セミは土中に7・8年間いますのでちょうど大石家が移築されたころに誕生したセミと言えます。それにしても今年の夏はあまりに短いものでした。

